

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：La facultad de Filología（文献学部）

学年：3年（Beca Intercambio 生）

留学先大学名：Universidad de Salamanca

現在の学期：El Segundo cuatremestre（後期）

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	
火	19:00~21:00 La Sociedad de Asia Oriental
水	10:00~12:00 Gramática para la enseñanza del español II 13:00~15:00 Traducción Directa (japonés→español)
木	
金	9:00~11:00 Aproximación a la cultura pop de Japón 11:00~13:00 Traducción Directa (japonés→español)
土・日	

履修科目や近況について

La Sociedad de Asia Oriental は、中国・日本・韓国の3か国の社会の仕組みを、スペインひいてはヨーロッパ諸国の社会と比較しながら学ぶ授業です。Asia Oriental に所属する学生にとっては必須科目のため人数は多く、前期で友達となった人も沢山います。日本人留学生も多くこの授業をとっています。先生がとてもゆっくり話してくれ、ユーモアもある方のため、雰囲気も和やかで生徒側も活発に意見を交わし合っています。ペアでステレオタイプに関する調べ学習&レポート(1~2枚分)執筆が2月末にあり、学期末の試験と合わせて成績評価がなされます。

Gramática para la Enseñanza del Español II は、前期と同様、スペイン語母語話者でない人へのスペイン語教授法を学ぶ授業です。前期と先生は異なり、内容もしっかり連続したものではなく、そのためIIのみを取ることも可能です。Lectura という、論文(今

回はスペイン語の叙法に関する RAE の文法書の一部)を読んでそれに対する分析・コメント(その他独自のアンケート調査や研究方法は自分で選択可能)を提出する課題があり、期限は4月頭までです。しかしこれは任意で、評価は学期末の最終試験のみでも可能です。しかしその場合、試験で高得点を取得する必要がありますし、Lectura 課題を提出するのが無難です。私含め多くの学生がそうする予定だと思えます。

Traducción Directa は、私が最も受けたかった授業で、日本語のテキストをスペイン語に翻訳する、またそのための(敬語など)日本語の詳しい理解のための授業です。授業内容は日本語についてなので、日本人学生にとってはすでに知っている内容になってしまうこと、翻訳は外国語から母語より、母語から外国語の方が難易度が高く、日本人学生にはその分高いレベルが求められます、と授業担当の先生が事前に注意くださいました。私はそれを受けとても不安になりましたが、実際、拙いながらも自分の意見を出すと先生は理解し受け入れてくれますし、クラスメイトと助け合ったりできています。学生数は8人ほどでアクティブラーニング式の授業のため、毎回1回以上は2、3人ほどで話し合いながら考える時間があります。このおかげで退屈なことはいないですし、疑問をぶつけあったり、日本語について教えたりすることもあります。この数回の中で、スペイン語に翻訳する時に注意すべき、スペイン語の細かなニュアンスも学ぶことができたので、早くもこの授業を履修して良かったなと思っています。小課題がほぼ毎回課され、学期末にかけていくつか中・大課題が出されるようです。内容は主に、短いテキストの内容理解とその翻訳です。出席も含め、学期末の最終試験と合わせて評価されます。試験にはパソコンの持ち込みが認められています。

Aproximación a la cultura pop de Japón は、日本のポップカルチャーがどのように発展し、世界中で受容されてきたかを学ぶ授業です。学生数は、30人弱で皆3年・4年生のため、飛び交う意見が他の授業でのものより鋭いと感じます。先生はスライドや映像を使って話してくれ、復習もしやすいです。また今期に関しては、先生が5月に日本へ行かれるとのことで3月頭までにレポート1~2枚分提出の課題が2つ、4月末に、最終試験の代わりとして、自主的にテーマを決めて研究・プレゼンテーション(7~10枚分、プレゼンは1人5分)をする課題があります。終わるのが早く試験がない分、前々から準備しプレゼンを行う必要があります。扱うテーマは、日本のポップカルチャーに関するものなら何でも良く、授業では映画、漫画やアニメ、J-POP とアイドル文化、「萌え」や「オタク」の概念などを扱うため、これらの中から選ぶこともできます。

後期は語学学校に行かず、授業を1つ増やし、その他の空いた時間を勉学面以外で自分のやりたいことや就活準備に当てられるようにしました。課題は基本、図書館でやっています。学期末の試験前は、日曜日でも開館し、24時間空いているところが多かったため、非常に助かりました。

前期で築いた人間関係のおかげで、後期での授業はよりスムーズなものになっている

と感じます。クラスに1人以上は友達がいる状況で、困ったときには助けてもらえています。またスペイン人の、日本語学習のためのボランティア活動にも積極的に参加し、日本の文化を知ってもらえること、自分が日本についてスペイン語で説明すること、会話の中で文化の違いを自分自身も学べることが嬉しく貴重な体験になっています。

気候に関しては、11月から冷え込み、12月、1月は風が強い日や雨の降る日が続くこともあり、防寒具は必須でした。2月は1日の寒暖差が激しく、また週によっても寒い日が続くこともあり、体調管理に一層気を付けるべきだと思います。この数か月では、頭痛や咽喉痛はたまにありましたが、それ以上に大きな病気になることはなく、持ってきた薬と、こちらで購入した薬とで回復しました。12月、1月で帰国してしまった日本人留学生に帰国前に薬を貰ったこともあり、今は余るほど持っており、不安はないです。

物価は以前より高いため、自炊を心がけています。野菜や果物は安く、健康面も考え様々な種類を試すのが楽しみになっています。もともと料理経験がほとんどなかった私ですが、InstagramやYouTubeなどに投稿されているレシピを参考に、料理に挑戦しています。年末年始に、アジアンスーパーで売っているお餅と冷凍餃子を購入し、それらを友人と食べた時は安心感でいっぱいになりました。

留学生活折り返しの1月あたりから、若干のホームシックになりましたが、新学期が始まるとそれもなくなりました。生活に慣れてきたことがその1つの要因だと思います。定期的に、行ったところのない場所を散歩したり、生活リズムを少し変えてみたりすると、リフレッシュでき、新鮮な気持ちでまた生活を送れるためおすすめです。それに、友人との会話などを通して、小さな街であるサラマンカでも、まだまだ知らない魅力が多くあることに気づいたので、また新たな見どころを見つけようと張り切った気持ちでいます。

半年が過ぎ、以前よりは語学力が伸びた実感もあり、少し自信がつき、カフェや散歩に行くのに自分から誘うこともできるようになりました。しかしまだまだ語彙不足でコミュニケーションが上手く取れないこともざらにあるため、さらに磨きをかけるよう励んでいきます。

